



先輩たちが最も苦勞してきた奉仕活動は  
職業奉仕であったのでは・・・

パストガバナー **寺田 和之**  
(大阪RC)

ライオンズクラブに職業奉仕はないらしい...

さかのぼること9年前にガバナーエレクトであった私が、大阪城前の春の交通安全運動進発式で、臨席のライオンズクラブの代表者から以下のような話を聞きました。「ライオンズクラブは、1917年ロータリークラブから幹部が分離独立したアメリカに本部を置く国際社会奉仕団体で、実業家や医師・学者が全世界各地で、国際交流や文化交流を行っており会員数も増加中です。世界大会は世界各地で行われ、2002年には大阪市長を名義上の主催者とする世界大会があります。クラブの綱領に職業奉仕活動は含まれていないのでご承知おきます。」とのことでした。

私は、わがロータリークラブにおける、職業奉仕活動は如何なる道を如何に辿ってきたかをながめつつ、創立104年を迎える今日、職業奉仕活動のあるべき姿をもう一度考えることが肝要ではないかと思っております。

ライオンズもロータリーも奉仕の精神は同じではないか？

ライオンズクラブは、ロータリークラブの創立12年後に国際的組織となった直後に一部の幹部会員が袂を分かち、地域の社会奉仕をモットーとする国際的社交団体として誕生しました。日本への進出は、東京ロータリークラブ設立1920年、大阪ロータリークラブ設立1922

年に遅れること約30年の1952年となっております。社交団体であり同時に奉仕団体であるかはさておいて、四大奉仕を掲げるロータリークラブと、We serveに力点を置く両者の方針の相違が、思想的ギャップを生んでいると言えましょう。同じような理想を持って奉仕活動を行っている国際的な二大奉仕団体にとっては不幸なことかもしれません。また、第三者からみれば国際的社交団体の形を持った各界のエリート集団が、宗教のような思想的基盤もなく組織として各種の支援や奉仕を親睦とともに長期にわたって実行していることは理解し難いかもしれません。しかし個人差はあってもロータリアンもライオンズ会員も究極の奉仕精神の持主であると私は確信しております。

#### 四大奉仕

ロータリークラブの歴史を尋ねれば、1927年にベルギーのオステンドで開催された国際大会で初めて、四大奉仕の考え方が決められ、それぞれ(1)クラブ奉仕(2)職業奉仕(3)社会奉仕(4)国際奉仕となり、現在まで連綿と継続されています。そしてこの大会で初めて「職業奉仕(Vocational Service)」という呼び名が与えられました。日本語では普通「職業」と訳しますが、英語では色々の言い回しがあり、夫々微妙に異なっています。

(1)Business(2)Job(3)Occupation(4)

Profession( 5 )Vocation等々、使われているようではありますが、Vocationには他とは少し異なったニュアンスが含まれると言われています。

- (イ) 神の授けたもうた仕事 = 天職
- (ロ) 社会生活における分業の担い手
- (ハ) 職分
- (ニ) 人に必要とされる職業

と、2660地区職業奉仕委員会が1990年10月と2008年9月に発行した「職業奉仕の小史」とその改訂版の「職業奉仕の心」にそれぞれ明記されています。

#### 職業奉仕の新方針

～クラブの役割とロータリアン個人の役割～

1987年RIにおいて40年振りに「職業奉仕」に関する特別委員会が招集され、新方針が採用されました。1989年に手続要覧改訂以後の「職業奉仕」では、「職業奉仕」はロータリークラブとクラブ会員の両方の責務であるとされています。

職業奉仕におけるクラブの役割は下記のとおりです。

- (1) たびたび職業奉仕を実践して見せることにより、会員に実践を奨励する。
- (2) クラブ自身の行動に職業奉仕を生かすことにより会員に実践を奨励する。
- (3) 模範となる実例を示すことにより、会員に実践を奨励する。
- (4) クラブ会員が自己の職業上の手腕を発揮できるプロジェクトを開発することにより会員に実践を奨励する。

一方、職業奉仕におけるロータリアン個人の役割は、ロータリーの原則に沿って、自らと自分の職業を律し、併せてクラブが開発したプロジェクトに応えることです。

このように「新方針」では、従来の基本であるロータリアンが個人で行う職業奉仕活動に加え、クラブとしても職業奉仕活動を行わねばならないとなっています。ただ、これはあくまでも従来の職業奉仕の理念の上にたっているものであるということを忘れないようにしなければならないと考えます。それを常に頭におき身に付けて行動する「真のロータリアン」が増加していけば、世の中はロータリーの素晴らしさに目を見張ることでしょう。それがロータリーの真の実力であり、真の底力であると思います。

#### 次年度のリーダーの皆さんへのエール

2009～10年度の世界各地区のガバナー、各クラブの会長・幹事の方々は既にスタートラインにつき、新年度のクラブ運営や会員増強に関する準備を完了し、ウォームアップをしておられることでしょう。おそらく今後数年、日本や多くのロータリアンが頭を痛めておられる問題は「RI職業奉仕部門の諸問題と今後の対策」ではなかろうかと拝察しております。

職業奉仕を特別な目で見ていた時期はもう終わったのではないのでしょうか。国際ロータリーの奉仕活動の歴史も第二世紀に入って既に数年経ちました。新しい職業奉仕を考える時とも言えます。クラブのする職業奉仕として子供たちへの出前授業や職場体験、個人のする職業奉仕としての自らを律することとともにクラブのプロジェクトに参加することなど、今こそ思い切った決断と改革が必要と思われるなりません。

次年度役員の皆様のご活躍を心から期待致しております。